

=目次=

1. 重大事故情報 = 8件 (7月2日~7月8日分)

- (1) 貸切バスがトラックと衝突した事故
- (2) 乗合バスがトラックと衝突した事故
- (3) タクシーが暴走し、歩行者を撥ねた事故
- (4) 大型トラックの車輪が脱落した事故
- (5) トラック運転者が救護義務違反の疑いで逮捕1
- (6) トラック運転者が救護義務違反の疑いで逮捕2
- (7) トラック運転者の酒気帯び運転による事故
- (8) トレーラに積載したコンテナが橋桁に衝突した事故

2. 国土交通省の施策情報

- (1) 自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会の報告書を公表しましたのでご活用下さい。

3. ここ3ヶ月の重大事故の傾向

【1. 重大事故情報 = 8件】(7月2日~7月8日分)

(1) 貸切バスがトラックと衝突した事故

7月3日午前8時40分頃、兵庫県の阪神高速のトンネル内において、タイヤが破裂したことにより側壁に衝突し、180度向きを変えて路上に停止(停止表示器材の設置、ハザードランプ等の点灯なし)していたトラックに、貸切バスが正面から衝突した。

この事故により、バスの乗客15名中1名が重傷、8名が軽傷を負い、当該トラックに同乗していた交代運転者が重傷を負った。

なお、当該トラックの交代運転者は、事故の通報のため当該トラックの運転者(負傷なし)とともに一旦トラックを離れたものの、携帯電話を取りに再び当該トラックのところへ戻ったところ、当該バスが衝突し、負傷した。

(2) 乗合バスがトラックと衝突した事故

7月5日午前7時50分頃、徳島県の一般国道において、乗合バスが、対向してきた自家用トラックと正面衝突した。

この事故により、高速バスの乗客6名のうち1名が死亡、5名が軽傷を負った。また、当該バスの運転者及び当該トラックの運転者も軽傷を負った。

現場は、片側一車線の峠道で、当該トラックの前方を走行していた軽乗用車が、道路上の動物の死体を発見し、急ブレーキをかけたため、当該トラックがこれを避けようとしたところセンターラインをはみ出したため双方の車両の右

前方及び右側面が衝突した模様。この際、当該トラックに装備されていた前方格納のクレーンブームが当該バス右側面のガラスを突き破った。

(3) タクシーが暴走し、歩行者を撥ねた事故

7月8日午前1時30分頃、大阪府において、タクシーが乗客を乗せ運行中、車両通行禁止の橋を暴走し、道路を歩いていた歩行者を次々と撥ねた後、道路沿いの飲食店に突っ込み停車した。

この事故により、当該タクシーに乗っていた乗客2名と撥ねられた歩行者5名のあわせて7名が軽傷を負った。

当該タクシーは、当該事故現場より約150m北側でお客を乗せた後、当該事故を起こした。

当該タクシーの運転者(73才)は、「エンジンの回転が異常にあがってしまって制御できなくなった。気が動転していた。」と供述している模様。

なお、事故当時、当該タクシーは乗車定員5名のところ、運転者と乗客合わせて6名が乗車していた。

(4) 大型トラックの車輪が脱落した事故

6月25日午前0時10分頃、神奈川県において、大型トラックが走行中、右後輪(2軸)の後軸側の車輪(ダブルタイヤ)2本が脱落し、うち1本の車輪が対向車線に転がり、走行してきた乗用車に衝突した。

この事故により、当該乗用車の運転者が頸椎捻挫の軽傷を負った。

当該車両の実況見分の結果、脱落したダブルタイヤのうち、内側のタイヤを取り付けるためのインナーナットの締め付けが緩かったため、タイヤの取り付け穴及びホイールボルトが徐々に摩耗して、結果車輪が脱落したことが判明した。

なお、当該事故の約2ヶ月前に当該運送事業者がタイヤ交換を、約1ヶ月前に指定整備工場にて3ヶ月点検を実施している。

(車両情報)車名:いすゞ、型式:KC-CXM81T1、

初度登録年月:平成7年2月、総走行距離:851,519km

(5) トラック運転者が救護義務違反の疑いで逮捕1

7月2日午前1時35分頃、栃木県において、トラックが歩行者を撥ねた。

当該トラックの運転者は、事故後、撥ねられた歩行者の救護措置をすることなく現場から立ち去った。

この事故で、撥ねられた歩行者は胸などを強く打ち、病院に搬送されたが間もなく死亡した。

警察のその後の調べにより、3日後の5日、トラックの運転者が、自動車運転過失致死及び道路交通法違反(救護義務違反)の疑いで逮捕された。

事故現場は、片側1車線の見通しの良い直線道路で、付近に信号機や横断歩道はなかった。

(6)トラック運転者が救護義務違反の疑いで逮捕 2

7月2日午前10時頃、埼玉県において、トラックがオートバイを追越す際に接触し、オートバイ運転者を転倒させた。

この事故で、転倒したオートバイの運転者が重傷を負った。

当該トラックの運転者は、事故後、負傷者の救護措置をすることなく現場から立ち去った。

警察のその後の調べにより、同日、トラックの運転者が、道路交通法違反(救護義務違反)の疑いで現行犯逮捕された。

(7)トラック運転者の酒気帯び運転による事故

7月4日午後11時30分頃、山口県において、トラックが、信号待ちのため停車していた軽自動車に追突し、更に、前方の乗用車2台に衝突するという計4台が絡む玉突き事故が発生した。

この事故による負傷者はなかった。

事故後、警察が当該トラックの運転者の呼気を確認したところ、アルコールが検出されたため、当該トラックの運転者は道路交通法違反(酒気帯び運転)の疑いで現行犯逮捕された。

(8)トレーラに積載したコンテナが橋桁に衝突した事故

7月6日午後4時30分頃、東京都において、コンテナを積載したトレーラが運行中、荷台に積載していたコンテナがJRの高架橋の橋桁に衝突した。

この事故による負傷者はなく、鉄道の運行にも影響はなかった。

当該高架橋の下の道路の高さ制限は3.8m(高さ制限の表記あり)であり、当該トレーラは、日頃、問題なく通過できていたが、今回、空のコンテナであり、かつ、当該高架橋の下を通過する際、運転者が加速したなどによりトレーラが浮き上がり衝突した模様。

当該コンテナは、すべて緊締装置(左右それぞれ中央1ヶ所止め)により、固定されており、落下はなかった。

【 2 . 国土交通省の施策情報】

(1) 自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会の平成21年度報告書を公表しましたのでご活用下さい。

国土交通省では、自動車交通局に、学識経験者、運送事業者、関係団体、関係省庁等からなる「自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会」(座長：堀野定雄 神奈川大学工学部准教授)を設置し、事業用自動車の事故の要因について、運行管理その他の観点から調査・分析を行うとともに、その結果を踏まえた再発防止策の検討等を行っており、毎年度その結果を報告書として取りまとめ公表しています。

平成21年度においては、交通事故の傾向分析、事業用自動車の運転者の健康管理に係るマニュアルの策定及び平成21年に発生した事業用自動車による社会的影響の大きい重大事故16例の要因分析を実施し、これを報告書として取りまとめました。

これら事故分析の内容は、各運送事業者が運転者に対して事故防止のための指導を行う際の参考としていただくことを目的としていますので、是非ご活用下さい。

また、事業用自動車の運転者の健康管理に係るマニュアルについては、近年増加傾向にある健康起因事故を防止することを目的としていますので、これを活用することにより、運転者の健康状態を良好に維持するようお願いいたします。

なお、当該マニュアルについては、社団法人日本バス協会会長、高速ツアーバス連絡協議会会長、社団法人全国乗用自動車連合会会長及び社団法人全日本トラック協会会長に対して、傘下会員への周知依頼等を行っています。

詳細につきましては、国土交通省ホームページをご覧ください。

(<http://www.mlit.go.jp/jidosha/anken/03analysis/examination.html>)

【3. ここ3ヶ月の重大事故の傾向】

平成22年4月2日から6月24日までの3ヶ月間に、メールマガジン「事業用自動車安全通信」により発信した重大事故の件数は92件（バス関連34件、タクシー関連28件、トラック関連30件）でした。

件数が多かったもの及び飲酒を伴ったものは以下ようになっており、飲酒を除き、前の3ヶ月と同様の傾向となっています。引き続きこれらの重大事故の防止に向けた指導・監督の充実をお願いします。

カッコ内は、平成22年1月1日～4月1日に発信した事故件数

バス関連

- ・車内での事故9件（12件）
- ・交差点での事故7件（5件）
- ・車両の火災事故5件（6件）

タクシー関連

- ・交差点での衝突事故11件（8件）
- ・飲酒・酒気帯び運転による事故1件（2件）

トラック関連

- ・飲酒・酒気帯び運転による事故1件（5件）
- ・救護義務違反（ひき逃げ）9件（9件）

【メールマガジン「事業用自動車安全通信」】

発行 国土交通省自動車交通局安全政策課

*このメルマガについてのご意見は、< jiko-antai@mlit.go.jp >までお寄せ
ください。

よくある質問（配信登録の解除方法等）

（ <http://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/anzenplan2009/faq.html> ）

自動車交通局ホームページ

（ <http://www.mlit.go.jp/jidosha/index.html> ）